



正面外観



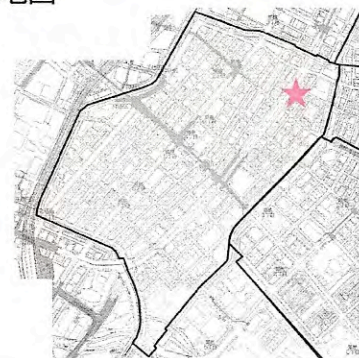
特徴的な内部空間

建築物データ

名称 川崎ブランド
デザインビルディング
所在地 銀座 1-20-17
創建年 昭和7年(1932)
構造 RC造(一部木造)
規模 3階建て

用途 創建時:店・事務所
現在:ギャラリー
設計者 不明
施工者 不明
創建時名称 五十鈴商会(古地図)

所在地図



—建築物の価値・総合的価値—

ギャラリーとして親しまれる、加飾タイルのモダニズムビル

荷揚げできる床の開口部など、油商店であった時代の痕跡を留めている。
外観はシンプルなモダニズムのデザインながら、加飾タイルが印象的である。
鉄筋コンクリート、コンクリートブロック、木造等を混ぜた珍しい構造の建物。
現在はギャラリーとして活用され、リノベーションの好例となっている。

建物の特徴や価値：設計や施工、設えなど

- ・ 厩本上はコンクリートブロック造となっているが、正面側半分は木造の床と梁を用い、奥側階段室はRC造であることが改修工事で分かった。
- ・ 一見スクラッチタイルに見える外壁タイルは、加飾タイルと呼ばれる珍しいもの。
- ・ 窓面のヘリに加飾タイルが破損した箇所は、モルタルで目地を表現してなじませている。
- ・ 2階木造床部分に開口部の跡があり、当初は荷下ろしなどの活用をしていたと思われる。
- ・ 階段の途中には当初からのものとみられる放射状の手摺りが取り付く。



穴の痕跡がある木造の床面

建物に関わるエピソード：建物の沿革や使われ方、地域との関わりなど

- ・ 固定資産台帳から創建は昭和7年とみられ、古地図では「五十鈴商会」の名が確認できる。当初は油を売る商店だったらしい。
- ・ 平成25年（2013）2月末に現オーナーに引渡され、6月にギャラリーとしてオープンした。
- ・ オープンに際して、当初は建替えを予定していた。建築家の藤本壮介氏に設計を依頼し、14階建てのタワー建築になる案もあったが、建物の持つ魅力を発見し、建物を保存活用する意志を固めた。
- ・ 現オーナーより以前、40年間は居酒屋がテナントとして入り、女将さんの建物への愛着が原動力となり、建物保存に結びついた。
- ・ 旧名称「宮脇ビル」は故・宮脇俊子氏が平成5年まで所有されていたことにちなむ。
- ・ 1、2階半分に日本料理屋、2階半分・3階にオフィスが入っていたが、現在はギャラリーとして活用されている。
- ・ 1階の大きい窓はボード壁などで覆われ、当初の姿が隠されていたが、改修によって窓面を再表出させ、80年前の姿に近づいた。
- ・ 自販機があって加飾タイルを交換したところは、タイルの再現ができないため、ディズニーシーの仕事の経験もあるペイント職人を呼んで色味を試行錯誤して整えた。



墨書がみられる床材

建物への思い：愛着やこだわり、活かされ方など

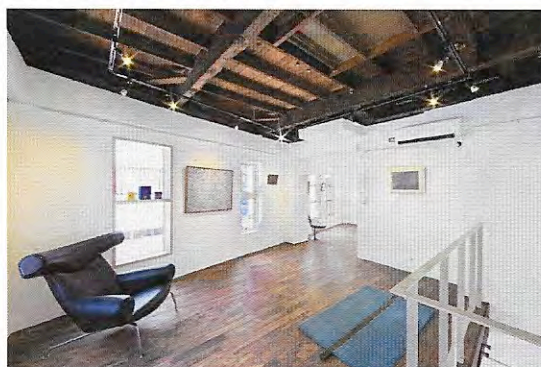
- ・ 九州を代表する建設会社出身のオーナーが3ヶ月かけて改修を指揮し、自らも^{がいに}碇子の線を切ったり、天井にオイルを塗ったりした。
- ・ ギャラリーとして建物の空間を活かした展示をする方には、「共創割引」というサービスを設けている（過去の展示会で建物をモチーフにしたアクセサリーなどがつくられている）。
- ・ 正面のモミジとツバキは40年前から植えられており、周辺の方の思い入れもあるため、シンボルツリーとして建物とともに残していきたい。
- ・ 周辺地区には沢山のギャラリーがあり、今後は少しでも多くの人に建築を利用してほしいという願いから、貸し画廊として活動を行うとのこと。



特徴的な手摺り



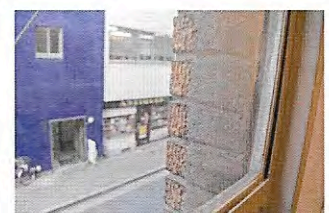
入り口



2階：ギャラリー部分



加飾タイル



破損部分の目地を表現したモルタル